

[別紙2]

## 審査の結果の要旨

氏名 秦 辰也

人口増加がとりわけ激しい開発途上国の都市の巨大化は、緊急を要する今日的課題である。中でも、都市スラムの居住環境の悪化は深刻さを極めており、守られるべき子どもたちが苦境に追い込まれ、犯罪に巻き込まれたり、居場所を失ったりするケースが後をたたない。その原因は、特に近代化論に象徴される経済を偏重する開発政策が先進諸国によって開発途上国に持ち込まれ、更なる南北の貧困格差を生み出してきたものと考えられる。こうした問題意識を背景に、本研究では都市スラムの生成と改善の歴史、現状と課題を整理し、「住民参加」によるスラムの居住環境改善という全体の中で「子ども」を捉え、「子ども参加」を位置づけている。そして、タイの都市スラムの居住環境改善に着目し、コミュニティ内の諸活動に子どもと大人が参加し、双方の関係性によって一歩ずつ確かな住まいと暮らしが確保され、健全で豊かなコミュニティを構築できる状況を整えられないのか、その可能性を理論的かつ実践的に探っている。

研究の成果として、タイの住民参加の理念には、歴史的な社会メカニズムの「サクディ・ナー」制度と、バラモン教、アニミズム、仏教思想という伝統的な社会・文化的背景があるが、近年、民主化への政治的転換と産業化政策の中で人権思想としての「市民」意識の向上へと変化した中で住民参加の意義が拡大したこと、住民参加がめざすのはコミュニティ形成のためのソーシャル・キャピタルの蓄積で、その有効性が発揮されれば居住環境が改善されると推察されること、また、その方法は、より多元的で重層的な住民参加の可能性を確保し、住民たちが主体的かつ自立的に居住環境改善を推進していく必要があり、「外部者」との関係性も大きなポイントである点、さらに住民のエンパワーメントでは特に「子どもの参加」が権利として重要な位置を占め、開発途上国の厳しい環境下においてその有効性が実証されるべきである点を指摘している。

また、住民参加の意義は、1970年代以降の民主化や、NGOなどによる住民の組織化が進み、居住環境改善政策に対する参加の機会が拡大・確保されてきた点に見出せ、特に1990年代以降のCBOのネットワーク形成と、CBOの活動内容が従来の住宅環境に関するハード面での改善から、子どもや高齢者などを含むよりソフトな社会開発面での活動へと進み、高次なものへと変化している点がさされてた。

そして、バンコク、チャンマイ、ソンクラで居住環境改善活動への青少年と大人の参加状況に関する統計分析では、双方の居住環境に対する精神的な価値観と、フィジカルな価値観とがほぼ共通であり、またそれぞれの課題について、青少年と大人が互に違った立場から活動に参加していること、双方の参加度とコミュニティへの帰属意識の向上には相関関係もみられ、年齢層を超えて住民全体が参加し合うことで相乗効果を高め、コミュニ

ニティへの帰属意識を向上させながら確固たるコミュニティの形成を図っていく必要があることを明らかにした。加えて、ウボンラーチャタニーの参加型ワークショップでは、青少年のソーシャル・キャピタルに関する認識が鋭く、CBOを中心とした住民のより密な人間関係によるコミュニティづくりの大切さが明確化された。実践事例の考察から導かれた結論においても、こどもたちの居住環境改善への参画が、現在の居住地区において安心して暮らせる持続可能な居住環境を確保していく上で重要な要因であることが窺え、今後のこどもたちの参画をどのように維持・発展させるかが成功の鍵となることが指摘されている。

以上を受けて、①都市スラムをコミュニティとして再認識し、個々のケースに対してコミュニティベースでアプローチし、現存するソーシャル・キャピタルとしての社会的資源を有効活用していけるよう包括的に解決策を練る必要があること、②既存の活動への住民参加をさらに高め、住民間の信頼関係や社会規範に基づく相互扶助意識の向上、ネットワーク化を図り、結束あるコミュニティを形成し、青年グループ活動には、住民リーダーによる助言や支援をすること、③従来から指摘されているジェンダー、民族、宗教を超えた多様な住民参加に加え、特にこどもと大人の関係性を大切にし、世代間を超えたより重層的な住民参加が可能な社会環境の確保を試みること、④特に地方都市では、コミュニティとしての都市スラムと「外部者」との関係の再構築を図ること、⑤「市民社会」における住民参加の促進のための住民ネットワーク組織とNGOの強化、そしてタイ国内の組織基盤のみならず、アジアの周辺諸国や国際社会におけるネットワークを確立すること、⑥近年、タイの都市スラムの改善目標がより高次になり、実践面でもCBOの住民リーダーやNGOなどがこどもたちの参加を促していることから、こどもたちに未来の持続可能なまちづくりへの希望を託すことであり、こどもたちの社会的な参画が関係者間で保障されれば、住民自身の手によってスラムは着実に改善されていくことを提言している

本研究は、タイをとって都市スラムにおける住民参加と子供参加によるまちづくりの関係を詳細に明らかにし、優れた学術的価値を有している。さらに、その分析を通じて今後の実践的課題についての有益な提言を行っている。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。